

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版64号



平成 26 年 9 月 10 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール info@aoyamayamato.net

★フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。また、メールにて、ファックス番号を送って頂ければ、毎月一回確実にお手元へ議会報告が届きます。

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在35歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。現在、県議会土木委員会、予算特別委員会委員、土浦市消防団第27分団員(操法大会へ4度出場)。

●子どもたちへの学習環境の整備へ。

先般、茨城県議会の代表質問を行いました。その中で、未来を担う児童生徒の育成ということで、ひとり親家庭などへの学習支援について質問致しました。厚生労働省の調査によると、18歳未満の子どもの貧困率が、平成15年の13.7%から上昇を続け、最近公表された平成24年の状況は16.3%という大変深刻な数値が示されました。さらに、ひとり親世帯の貧困率は54.6%にも上り、母子家庭などでは、半分以上の世帯が貧困に陥っております。

そこで、代表質問において、「私はひとり親家庭や貧困世帯などで、学びたいのに家庭環境によって学習する機会を得ることができない子どもたちへ学習の機会を整備することは、子どもたちの将来とこれからの社会にとっても大変重要であると考えます。さらに、子どもたちの学習の遅れを取り戻す取り組みと平行して、より学習意欲のある子どもたちに対しては、いわゆる「進学塾」的な役割の支援も重要であると考えます。実際、他県では、家庭教師や個別指導で有名な企業と連携するなど、ひとり親家庭の学習支援事業にプロのノウハウを活用する事例も出てきております。茨城県としては、この問題についてどのように認識し取り組んでいくのか。」と質問致しました。

これに対して知事からは、「茨城県でも竜ヶ崎市にあるNPO法人が生活困窮者に対する学習支援を開始したほか、県内の児童養護施設においても入所児童への学習支援を実施するなど県内でも様々な活動が行われております。県としても、ひとり親家庭の子どもへの学習支援や進学相談を行う事業を市町村と連携しながら検討していきたい。」との答弁がありました。この質問は翌日の新聞にも掲載されました。裏面をご覧ください。

●避難勧告指示の早急な策定を。

先の広島市を襲った集中豪雨による土砂災害による惨状を目にし、県内44市町村の避難勧告や避難指示の発令基準の策定状況について調査したところ、土砂災害に関する発令基準を策定済みの自治体は33とのことでした。策定の必要があるにもかかわらず、未策定の市町村がいくつかあるので、県として早急な策定の呼びかけをするとともに、県内の危険箇所の把握状況について、市町村でバラツキが生じないように支援することを代表質問において強く要望いたしました。

●政治家冥利に尽きる。

先日、信号待ちをしていたら、市内のある通学路で一部欠けていた歩道の設置が、この夏に実現したことについて改めてお礼を言われました。もう何十年も前から、この部分だけ歩道が欠けていて、住民の皆様も半ばあきらめていたとのこと。ただ、子供たちは毎日ここを通るわけであり、雨や雪の日には水たまりを避けるために道路に出してしまうこともあり危険であったとのこと。

この案件については、1月に発行したこの議会報告かわら版において、通学路における安全対策の実施状況について記載し、「これからも市内の通学路における危険があれば地区長さんや学校などを通して青山までご連絡ください」と書いたところ地元の地区長さんからご相談頂き、その後、地権者さんや茨城県土木部の協力を得て実現することができました。これ以外にも同様の案件(何らかの理由で長年放置されていた危険箇所)の改善に現在、取り組んでおります。

やはり、感謝されると嬉しいです。これからも議会報告を作成配布し、青山の活動を伝え、大なり小なり地域の課題をよい方向へ動かすため粘り強く取り組んでいきたいと思っております。